

遠藤周作学会会報

第7号

2012年10月8日
発行 遠藤周作学会
代表 笠井 秋生

二〇一二年度遠藤周作学会・全国大会
総会報告
事務局より

◇第七回二〇一二年度遠藤周作学会・全国大会開催

第七回二〇一二年度遠藤周作学会・全国大会は、二〇一二年九月十五日（土）に、京都外語大学にて開催された。

運営委員会が一時半より行われた後、一三時より京都外語大学の長濱拓磨氏より開会の辞が述べられ、以下プログラムのとおり研究発表が行われた。続いて、京都外語大学ブラジルポルトガル語学科長、住田育法氏による講演が行なわれ、その後、総会が開かれた。

大会進行役は昭和女子大学の笛木美佳氏及び、ノートルダム清心女子大学の山根道公氏が担当した。

プログラム

【研究発表】

① 遠藤周作『侍』論

—「ベラスコ」における〈イエス〉像の変遷—

佐藤まどか

② 遠藤周作『深い河』論

—美津子の魂の旅程における

〈母なるもの〉の内実—

関西学院大学大学院研究員 古浦修子

③ 遠藤周作の作中人物造形

司会 星美学園短期大学 武田秀美

「深い河」の成瀬美津子

フランス、リール第3大学日本学科準教授

竹本俊雄

④ 遠藤周作の神理解と
司会 白百合女子大学 福田耕介

西欧カトリック教会の神理解

ポアノヴァ宣教会（ポルトガル）大阪大司教区

高槻教会担当司祭 アシエンソ・アデリノ

司会 横浜女子短期大学元教授 兼子盾夫

【講演】

⑤ 南蛮のまなざしを想う

京都外国語大学ブラジルポルトガル語学科長

住田育法

【総会】

総会は、議長に片山はるひ氏を選出して開かれた。

まず、二〇一一年度事業報告がなされた。内容は次のとおり。

◆ 第六回二〇一一年度遠藤周作学会・全国大会

を山口県下関市、梅光学院大学にて開催。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』第五号発行。

第六回遠藤周作学会の発表者三氏に加え、佐

藤顧問の講演原稿、笠井代長の論文、ほか一

氏の投稿論文、二〇一一年度遠藤周作参考文献

目録及び研究展望も収録。今号より背表紙に

欧文タイトル掲載。英文校閲は、ヴァン・ゲ

ッセル氏に依頼した。創刊号は再版を検討中。

◆ 会員数は、二〇一二年九月時点で八十名。二

〇一一年度の新会員は七名。

次に、事務局より二〇一一年度会計報告が行わ

れ、太原正裕氏、今井真理氏により監査報告がな

され、承認された。

続いて、事務局より二〇一一年度事業計画につ

いて示された。内容は次のとおり。

◆ 役員の変更について、運営委員で検討した結

果、笠井氏に代表を継続していただき、川島

氏を副代表として、運営委員全体で協力して

いく体制で今後もすすめる案が出され、承認

された。また、事務局長については、次期も

山根氏が務め、事務局長補佐は井上氏が担当、

現運営委員は、留任し、新運営委員として、

太原氏に加わる案が出され、承認された。さ

らに、機関誌編集委員の研究展望担当を、武田氏から笛木氏に引き継ぐ案が、承認された。会則の変更については、副代表を新たに設けることに伴い、会則に次の下線部を追加する変更案が提出され、承認された。

会則(4) ②代表 一名(副代表を置くことができる)

会則(5) ②代表及び事務局長は運営委員の互選により選出し、総会において承認を得る。副代表を置く場合も同様とする。

作品別研究史の企画について、再来年の『遠藤周作研究』への掲載をめざし、長濱氏を中心に企画を進めることが報告された。

◆ 第7回2012年度遠藤周作学会・全国大会を京都外国語大学にて開催。会員二十七名、聴講者約三十名の参加があったことが報告された。

◆ 機関誌『遠藤周作研究』次号(第六号)は、今回の発表者4人の原稿を掲載予定。募集要項等はこれまで通り。

◆ 二〇一三年度の大会は、慶應義塾大学で、九月二十一日(土)に開催予定。

最後に山梨英知大学の川島秀一氏の閉会の辞をもつて全国大会の日程を終了した。約三十名が懇親会会場のニュートーキョーITALICOに移動し、新会員や発表者、講演者の挨拶が行われ、始終和やかな交流が行われた。

■ 事務局より

▼第七回遠藤周作学会・全国大会は、遠藤周作が最晩年には別荘を建てるほど愛した古都、京都にある京都外国語大学にて開催することができました。参加者は会員二十七名に、聴講者が約三十名加わり、盛会でした。この開催のためにご尽力くださいました京都外国語大学の長濱拓磨氏には改めて御礼申し上げます。

▼今回の大会の研究発表は、日本文学の若手研究者二名の充実した発表に始まり、フランスのリール大学の日本文学研究者によるフランス文学との比較研究的視点からの発表、最後にローマ・グレゴリアン大学にて遠藤文学における神義論で神学博士号を取得した

ポルトガル人のカトリック神父による神学的視点からの発表と、今回も多方面から遠藤文学に迫る、遠藤周作学会ならではのものとなりました。

▼機関誌「遠藤周作研究」第6号の投稿論文を募集します。機関誌の最後にある投稿規定をご覧のうえ、会員の方々の意欲的な投稿が多く寄せられることをお待ちしております。なお、投稿規定の字数について四〇〇字詰原稿用紙に換算して三〇枚以内とありますが、四〇枚以内に昨年度から改訂されています。今回の機関誌の投稿規程にはこちらのミスで「三十枚以内」のままになっていますので、お間違いのないようにご注意ください。

▼次回の研究発表の申込みは来年五月末日締切りです。三月に改めて募集のお知らせをいたします。来年は遠藤周作生誕九十一年の記念の年でもあり、今回の会場は、遠藤周作の母校である慶応義塾大学を予定しています。多くの学会員が集い、充実した研究発表がなされ、盛会となりますことを期待します。

▼笠井代表は足がまだ少しお悪いため、今回も大会にご参加いただけませんが、それ以外はお元気で、

遠藤作品の研究をさらに精力的に進めておられるよう、学会員の皆さんによるしくとのことでした。

▼最後に学会員の方々に「ご協力のお願いがあります。機関誌の「遠藤周作参考文献目録及び研究展望」では、この二年間武田氏に大変なご尽力をいただき、感謝申しあげます。次回からは、笛木氏に担当いただくことになっていきますので、遠藤周作に関する、会員方々の論文はもちろん、入手できた参考文献についての情報を、笛木氏に直接、お知らせください。また、これまで参考文献目録について、遺漏のある場合も、今後、笛木氏にご連絡お願いします。

遠藤周作学会 事務局

〒700-8516 岡山市北区伊福町2-16-9

ノートルダム清心女子大学 山根道公研究室

TEL: 086 (2522) 31229

E-mail: yamane@post.ndsu.ac.jp